

第4回札幌市行政評価委員会

会 議 録

日時：2024年9月25日（水）午前9時30分開会
場所：札幌市役所本庁舎 9階 南東会議室

1. 開 会

●平本委員長

これより、今年度第4回の札幌市行政評価委員会を始めます。

開催に当たりまして、事務局からご連絡等があればお願いいたします。

●事務局

お手元の資料は、外部評価報告書（案）と、令和5年度の札子連の決算、財務諸表は、高橋委員から皆さんもご覧になったほうがいいということで、念のため、参考資料としてつけさせていただきました。

2. 議 事

●平本委員長

それでは、早速、議事に入りたいと思います。

本日は、議題が1点、外部評価報告書（案）についてでございます。

前回、第3回委員会で、委員の皆様方に外部評価対象となった各事業の指摘事項についてご検討いただきました。それを踏まえまして、今回、最終的な報告書の形で事務局におまとめいただいたので、これにつきまして、ご説明をいただきながら、項目ごとにご議論をいただきたいと思います。

それでは、ご説明をお願いいたします。

●事務局

それでは、お手元の外部評価報告書（案）についてご説明させていただきます。

まず初めに、表紙を1枚おめくりいただきまして、目次、報告書の概略でございますが、まず、第1章では、外部評価の概要として評価制度の概要や今年度の評価対象事業選定の手法等を記載しております。

第2章は、今年度実施した外部評価の結果について記載しておりまして、ここがメインの箇所になります。評価対象事業の概要及び評価結果として、今回、外部評価対象とした8事業の評価の内容と指摘事項を記載しております。

以上が全体の概略でございます、続いて、第1章から順にご説明させていただきます。

まず、1ページ目、第1章、外部評価の概要でございますが、ここは外部評価の取組、概要、評価対象事業の選定方法等を記載しています。

ここで、1点補足でございます、中段に図が掲載されておりますが、例年、行政評価委員会の取組とともに、市民参加の取組というものを行っておりました。その下の段落に記載のとおり、特に市民目線、市民感覚を踏まえる必要が高いテーマについて、令和4年度以前は市民参加ワークショップというものを実施しておりましたが、参加者が限定的であるなど、見直しが必要ということで、有効な市民参加手法の在り方を検討することとしております。

ここでは、評価結果を分かりやすく掲載して、それに対して意見をいただくことで、より有効な手法による実践を行っていただく、このような記載をさせていただいております。

続いて、2ページ目ですが、評価対象とした8事業を掲載しておりまして、評価結果は第2章に掲載しております。

3ページには、今年度の委員会の審議スケジュールを掲載しております。

続いて、4ページにお進みいただきまして、ここからがメインの評価対象事業と評価結果と指摘事項でございます。

事業ナンバー1の首都圏シティプロモーション推進室から一つずつご審議いただきたいと思っております。

まず、構成ですが、アとして、事業の概要を表形式で記載しており、イとして、今までの委員会審議を踏まえた評価の内容を示しており、ウとして、評価内容を踏まえて導き出される指摘事項を記載しております。

それでは、資料の中身に入らせていただきます。

事業ナンバー1の首都圏シティプロモーション推進費ですが、これまでの委員会審議では、主に成果指標について着目してご議論いただいたところでした。

評価の内容を踏まえまして、指摘事項でございますが、事業の目的である首都圏から札幌に移住や企業誘致の促進という観点から、現在の成果指標では当事業の取組によって得られる成果を説明し、また、効果的な事業見直しを図る状況にはなっていないと考えられる。活動指標として、つながりができた企業の数やイベント参加者数、SNS登録者数などを把握していくことが重要であるが、それらの取組の結果、実際にどのような成果に結びついたのかを把握していくことが重要と考えられる。例えば、当時の取組によって直接的に企業誘致等につながった実績を把握するなど、成果指標を適切に設定するとともに、SNSによる情報発信など個々の取組においても、その取組によってどのようなアクションにつながったのか、その効果検証、分析を行い効果的な事業構築を進めること、このような内容とさせていただきました。

以上につきまして、ご審議いただければと思っております。

●平本委員長

まず最初の首都圏シティプロモーション推進費ですけれども、今ご説明いただきましたように、最終的に、ウの指摘事項でこのような指摘をしたかどうかという原案でございますので、これにつきまして、いい、悪い、あるいは、こういうことを少し付け加えたらどうかというようなご意見をいただければと思っております。

いかがでしょうか。

特に追加修正等はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

●平本委員長

それでは、事業ナンバー１の首都圏シティプロモート推進費につきましては、このような形で報告書としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●平本委員長

ありがとうございます。

それでは、次に、事業ナンバー２は、事前の説明があった案件でございます。

こちらにつきましてもご説明をお願いいたします。

●事務局

事業ナンバー２、少年団体活動促進費についてであります。

こちらの委員会審議については、他都市の事業計画、契約書の実態、委託費用の内訳等々について、事業の偏在性などについてご議論いただいたところでした。

評価の内容を踏まえまして、指摘事項でございますが、理由を実施に当たっては、長年にわたり同団体に対して相当の予算規模にて委託を実施しており、より高い透明性が求められるところである。現受託者を除いて当事業を実施できる事業者は存在しないか、いま一度検証を行うとともに、現在の特定期間契約以外の調達方法も含め、事業実施主体の設定の在り方について、透明性、公正性を確保すること。

事業規模や実施内容の妥当性検証のため、経費使途の詳細を把握するなど事業の適正化や透明性確保に努めること。また、限られた予算で効率的な事業を実施しなければならないところ、利用者の費用負担についても検討すること。

事業の目指すべきところとして、参加した子どもたちが地域に貢献するリーダーとして成長したかなど、取組の成果を適切に把握し、事業の意義を市民へ説明できる状態にすること、このような内容とさせていただきます。

以上につきまして、ご審議いただければと思います。

●平本委員長

指摘事項としては、ウに書いてあるような内容でご提案したいわけですが、これにつきまして、何かご意見があればいただきたいと思います。

短い文ではあるのですが、事務局にはこれまでご議論いただいたことの意を酌んで文章をつくっていただいているのですが、もう少しこういうことを追加したほうがいいというご意見があればご議論いただきたいと思います。どうでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●平本委員長

よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●平本委員長

それでは、担当の課長と少しご議論がありましたけれども、透明性、公正性の確保がとても重要だということで、これはぜひ原課にお考えいただきまして、札子連以外の担

い手がないかということも含めて、きちんと真剣にご検討いただいた上で、また何年か後にちゃんと改善されているかどうかをこの行政評価委員会の場でチェックする必要があるのかなと思います。そのときのメンバーは誰かということは別として、今後そのような形で少しウオッチをしていくことになろうかと思います。

それでは、事業ナンバー3、U I J ターン就職移住支援費につきましてご説明をお願いします。

●事務局

これまでの委員会審議では、主に移住支援金制度の募集から支給決定までのスキームに着眼してご議論いただいたところでした。

評価の内容を踏まえまして、指摘事項でございますが、移住支援金制度において、支給対象者の決定は先着順のため、募集開始から間もなく募集が打ち切られており、申請も事後的に行われている状態である。制度を先に知った者が有利に制度利用できる状態であり、公金で実施する事業としては公平性に欠ける状態となっており、また、制度が存在することで札幌市への移住が促進される状態とは言い難い状況である。ついては、利用の意向のある方に広く制度利用の機会を提供し、公正性を担保しながら、制度の趣旨に沿った申請に対して支援金を支給できるような対象者選定の在り方を検討すること。

また、制度開始から5年経過していないため、現状では制度利用者の厳密な定住率が特定できないところであるが、事業評価や不正利用防止の観点から、今後、将来的に定住率を把握し検証を進めること、このような内容とさせていただきました。

以上につきまして、ご審議いただければと思います。

●平本委員長

こちらにつきましても、委員の皆様方のご意見等があれば、ぜひいただきたいと思います。

いかがでしょう。

新年度の3日目ぐらいで打ち切りになってしまうものですね。

●事務局

そうですね。

●小島委員

難しいですね。これがあってもなくても引っ越す人がおられると思うのですけれども、後押しになるなら、それにこしたことはないのだと思うのです。

ただ、それが早い者勝ちというのが問題だと思うのです。確かに、早い者勝ちのよさがあってもいいのですが、二つに分けて後から入りたい人がちゃんと参加できるようにするという仕組みが欲しいです。この指摘事項でよろしいと思うのですけれども、やはりちゃんと工夫をしていただけるといいのかなと思います。

あとは、内田副委員長からもご指摘があったように、ちゃんと5年以上定住してくれるというところは非常に大事だと思うのです。これはまだ始まった途中で、期待のとお

り本当に効果があったのかが把握できていないのは整理のとおりだと思うのですが、どれくらい定着したのかを後の委員会で継続的にウオッチする必要があると思います。

●事務局

承知しました。

●平本委員長

本当は、5年以上国の予算が続くかどうか分からなくて、きちんと効果を測定できるだけ事業が継続されるかどうかという問題があるのだと思います。

こういうお上のお金が入るような類いのものですと、手を挙げないと損だというような感じになってしまうのですが、札幌市のように求心力があり、札幌に住みたいと移住者が入ってくるようなところで、あえて周辺の市町村から移住者を奪い取るような形でこういうことをやるのが本当にいいのか、国がお金を出してくれたら、それに全部食らいつかなければいけないのかというようなことは、本当は考えなければいけないのだらうなと思います。現状では、国の制度でお金が出るのならやらなければいけないよねというふうに皆さん思っているのだけれども、本当にそうでしょうかという根本の根本は考えていただけるといいなと思います。

これは指摘事項に入れる必要はありませんが、平本個人としてはそういう気持ちでいるということでございます。

ほかにどうぞ。

●高橋委員

可能であれば、定住率の検証の際には、住民票のみではなくて、居住の実態があるかも注意して進めるようにみたいなことを指摘事項の最後に追加していただきたいと思います。

●平本委員長

居住実態を確認するということも含めてということですね。

●高橋委員

住民票だけ移さないで、実際は戻っているとか、いろいろなことを考えられるなど。

●平本委員長

しかも、テレワークというものができるようになってしまうと、どこに住民票を置けるかがあまり重要ではなくなってしまうと、選挙の投票と市民税の支払いの話ぐらいしか問題ではなくなってしまうのです。

それは重要なことですから、実態を伴っていることを確認するというような文言を加えていただければと思います。

●事務局

承知しました。

●平本委員長

ほかにございませんか。

●内田副委員長

根本的にはこれでいいと思うのですが、内容の確認で、これは国がやられているということで、移住支援金の要件を満たした者が決められているのですが、運営としては、もう既に住んでいる人も申請できるというところを私はヒアリングのときに聞き逃していたのですが、もう来ている人も1年未満であれば申請してお金を払うというのは効果がないのかなと思ったのです。

この要件は国が決めているものなのか、あるいは、札幌市に裁量があって居住して1年未満というものを条件に加えたのか。少なくとも、事業概要には1年未満と入っていないと思ったのですが、何で既に住んでいる人を対象にしたのか。志はいいのですが、制度設計に穴があるように見えるのです。よく見ると、この1年未満というのはどこにも書いていないのですが、事後的に申請可能というのは誰が付け足したのですか。

●事務局

これは、支援金交付要綱というものを札幌市の中で定めております。ただ、これは、国の縛りなのか、市で縛っているのかというのが不明です。

●内田副委員長

縛りというか、緩めている感じがします。

●平本委員長

どちらかというと、そうですね。

●事務局

一応、申請の要件として、申請時において転入後1年以内であることと明確に書いてあります。

●内田副委員長

それは決定的におかしい感じがします。住んでいる人が申請できるというのが本来の目的と違うのかなと思うのですが、恐らく、札幌市独自でつけてしまっているような感じですよ。

●小島委員

国の制度ですから、恐らく、市が勝手にできるものはあまりないと思うので、国がそうしているのだと思います。

逆に、何か条件をつけることもできるような気がするのです。要は、引っ越してきた人にお金を払ってもしようがないというところもあって、これからどうしようかなと思っている人を後押しするのに補助金を使うというのが多分あるべき姿ではないか、しかも、予算が消化できなくて困っていますというのだったらともかくとして、応募が多いのだとすると、これから来る人だけを対象にする、あるいは、少なくとも優先するというような何か工夫があってもいいような気はします。

●事務局

そこがもう少し分かるように指摘に反映させるということでしょうか。

●小島委員

何となく違和感がありますよね。

●内田副委員長

ありますよね。

●平本委員長

今のご意見に基づきまして、指摘事項の文章の修正をお願いできますか。

●事務局

承知しました。

●平本委員長

修正いただいたものについては、最終的にもう一回見ていただきますか、それとも、事務局と委員長にお任せいただければ、私のほうで確認して、ご意見が反映されていれば、そういう形で確定しますが、どちらがよろしいでしょうか。

私にご一任いただけますか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●平本委員長

ありがとうございます。

それでは、まずは文言を修正していただきまして、事務局と私の間で1往復しまして、その上で確定したいと思います。

ほかによろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●平本委員長

それでは、次に、事業ナンバー4、ローカルマッチプロジェクト事業費ということでご説明をお願いします。

●事務局

こちらは、これまでの委員会審議では、主に参加企業の対象範囲、支援の在り方といった点に着眼してご議論いただいたところでした。

評価の内容を踏まえまして、指摘事項でございますが、本事業の実施により一定の成果が上がっていると評価できるが、現状では対象企業数が限定されている状態である。さらなる効果が見込まれるため、事業内容を見直し参加できる企業数を増やすなど、より支援の対象を拡大することを検討するとともに、企業に対しても制度の認知を広げ、偏りなく幅広い業種・業界の企業を支援できるよう、効果を最大限発揮できる事業構築を検討すること、このような内容とさせていただきました。

以上につきまして、ご審議いただければと思います。

●平本委員長

これは、効果が上がっているのだからもっと広げたらいいのではないかというのが委

員会でのご意見だったので、そういうような指摘になっております。

もしお気づきの点、付け加えるべき事項等があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

●小島委員

行政評価委員会で予算を増やすということを言う機会がありませんので、できるのだったら、予算を増やしたほうがいいのかないかなという気はしています。ちゃんと効果が上がっているわけですから、そのほうがいいだろうと思います。特に、人手不足は深刻で、この後さらに深刻になってくると思うので、そういうものを積極的にやられたほうがいいのかないかなと思います。

それが財政的に厳しいとしても、今、委員長からご指摘いただいたように、何か一つのパイを上手に分ければ、もう少しいっぱいの人が食べれるよねという工夫の方法はあると思いますし、応募されている中小企業も全額面倒を見てくれないと嫌だというわけでもないと思うのです。ある程度、市がまとめてくれるのであれば、多少、負担金が1万円とか2万円増えてもいいよというところもあると思うので、何かそういう形でみんながいっぱいパイを食べられて効果が出てくるようになるといいのかなと思いました。

●平本委員長

そういうニュアンスをここに盛り込むのはなかなか難しいので、改革推進室から原局に、第4回行政評価委員会でこういうような意見が出ましたよということをフィードバックしていただくことは可能ですよね。

●事務局

それは可能です。

●平本委員長

要は、行政評価委員会としては、いい事業だし、予算の拡大もあり得ると思うと。ただ、財政上の制約もあるから上手にやりくりをして、より効果が上がるものにする、あるいは、一部参加費を取って参加企業数を拡大するなど、いろいろな方策があり得ると思うので、積極的に検討してくださいということをフィードバックしていただけると今の小島委員の趣旨が反映されるかなと思います。

お手間をかけますが、お願いいたします。

●事務局

承知しました。

●平本委員長

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

●平本委員長

よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

●平本委員長

ありがとうございます。

それでは、次に、事業ナンバー5、IT人材確保育成費につきましてご説明をお願いいたします。

●事務局

こちらにつきまして、これまでの委員会審議において、主に、小・中学生向けの取組の在り方、事業のターゲティングといった点、他部署との連携等に着眼してご議論いただいたところでした。

評価の内容を踏まえまして、指摘事項でございますが、まず、短期的な視点である現在不足している市内IT人材での対応事業について、想定しているIT人材とはどのような性質の人を指すのか、その定義づけも踏まえながらターゲットを明確にし、不足状況の実態把握も必要と考えられることから、現状の分析、検証を行った上で効果的な事業構築を検討すること。

長期的な視点での小・中学生のアプローチについて、限られた予算状況の中で効果的に成果を見いだすことを検討しなければならないところ、IT人材育成をサポートする教育機関の充足度などの検証等も行いつつ、事業実施により対象者がIT人材のキャリアを歩むことに主眼を置いたより実効性の高い事業構築を検討すること。

事業方式に当たっては、道外からの人材確保の観点では東京事務所や産業振興部、小・中学生のアプローチという観点では教育委員会など、関連する他部局との連携を十分に行之、効果が最大限発揮される手法を検討すること、このような内容とさせていただきました。

以上につきまして、ご審議いただければと思います。

●平本委員長

これもいろいろ議論があった事業でしたけれども、一応、こういうような形で原案をつくりました。

ご指摘があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

●小島委員

ここで想定しているIT人材と、今、企業あるいは社会が求めているIT人材は、多分、ずれているのではないかという気がしているのです。これは継続的、定期的に3年とか4年という単位でウォッチをしないとずれるなという感じがしています。それでなくても実際に予算を組むのに1年かかるので、そこで打っている手がどんどん陳腐化する可能性があるような気がするので、そこは意識をしていただく必要があるのかなと思いました。

だから、指摘事項も基本的にはこれでいいと思うのですけれども、移り変わりが早いので、求められているIT人材も常に変化しているみたいなことを文言として少し入れておいていただいたほうがいいのかと思いました。昨日、たまたまそういう話をして

いて、言われてみれば、確かに、IT人材の中身が変わっているよねと思ったので、その辺りを指摘しておいていただくといいのかなと思いました。その上で、求めているIT人材を市内の企業に供給するとかマッチングをするのに何をする必要があるのかを考え続けられないいけないのではないかとこのところではあります。

●平本委員長

今、小島委員からご指摘のあった求められるIT人材ですが、この業界は物すごく移り変わりが早いということを少し入れていただいて、そういうことを踏まえた上で、そのときに必要とされるIT人材の育成をします。

でも、そうすると、小学生や中学生にプログラミングを教えるという話はもう違う話になってしまうのですよね。

●小島委員

だから、下手すると、ChatGPTで何ができるのかを教えなければいけないのだけれども、でも、それは彼らが大人になる10年後には既に陳腐化している可能性もあるので、だから、実は、小学生からアプローチするのは難しいよねということがあります。

一方で、大学や専門学校がこれにきちんと追いついているかということ、実はそうでもないような気がするので、だから、非常に難しいテーマだよなというのは改めて感じました。もちろん、やらなければいけないテーマだけれども、こちらの部署が考えているよりもペースが早いので、それにどういうふうに追いついていく必要があるのかということは考えていただく必要があるかなと思います。何となく、プログラミングができればいいのではないのではないかとこのところではあります。

●平本委員長

学校で算数や数学を教えるのも、将来それを仕事に使うことではなくて、きちんとした論理的な思考ができるようになるために教育しているわけですよね。プログラミングも似ていて、ロジカルに考えないと機械が受け付けてくれないから、そういうような子を育てるという意味では、プログラミングに一定の意義があると思うのだけれど、IT人材の育成となると、今、小島委員がおっしゃったような意味で、もう少しそのときそのときのニーズに合わせた人材を育成していく、場合によっては、いっぱいいいところから来ていただくことを考えなければいけないということだと思います。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

●平本委員長

よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

●平本委員長

それでは、次に、事業ナンバー6、都心における冬のアクティビティ創出費についま

してご説明をお願いいたします。

●事務局

こちらは、これまでの委員会審議では、主に事業目的に照らした際の事業のコンセプトであったり、事業実施の手法、あとは、民間資金による自走化といった点に着眼してご議論いただいたところでした。

評価の内容を踏まえまして、指摘事項でございますが、アクティビティーの創出自体は否定されるものではないものの、事業目的と実態が乖離している現状を鑑み、本事業におけるコンセプトや事業構築を再検討すること。

なお、その際には、当取組を札幌市の固有コンテンツの一つとして昇華させ誘客を促進する観点から、開催時期や期間、開催場所について、より政策的効果を高める方法を検討すること。

また、最終的に民間資金による自走化を図るため、必要来場者数のシミュレーションや費用対効果について検証するなど、自走化に向けた計画の策定も含め検討を進めること、このような内容とさせていただきました。

以上につきまして、ご審議いただければと思います。

●平本委員長

それでは、これにつきまして、ご意見等があればいただきたいと思います。いかがでしょうか。

これも、どちらかという、悪くないのだけれども、いろいろ余計な理屈がついてるよねというような議論とか、本気で自走させることまで考えてやるならば、雪まつり期間だけに限定するということではなく、それから、赤れんがテラスでやるのではなく、もう少しいい場所でやるほうが札幌市にとってプラスではないですか、最終的にこれを札幌市における冬の観光客誘致の一つの目玉とするのであるならば、もう少し本気でやってもらったほうがいいのではないですかということが第3回委員会でご議論いただいた内容だと思うのです。

それをこういうふうに簡潔にまとめていただいたのですが、よろしいでしょうか。

●小島委員

イの評価内容をちゃんと確認して欲しいということではないかと思うのです。恐らく、お役所あるあるで、いろいろな目的を載せておくとなんか見栄えがいいから載せておこうみたいな感じで、どう見てもスポーツ振興ではないものが混ざっている、そこはちゃんと一回整理していただくという指摘事項でいいのではないかと思います。

あとは、今、平本委員長からご指摘いただいたように、場所や自走の問題ということで、横浜で割と長い日数で自走していますと。条件的には、当然、横浜のほうが気温は高く、札幌のほうが寒いので、リンクをつくるのにコストはかからないでしょうということはあると思うのです。ちゃんとうまくいっている事例があるので、その辺をうまく参考にさせていただいて、自走できるように、もっと観光誘客につながるような事

業に仕立てていただけるといいのかなと思いました。

●平本委員長

ほかに何かお気づきの点はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

●平本委員長

よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

●平本委員長

ありがとうございます。

それでは、次に、事業ナンバー7、健やかな道路緑化推進費につきましてご説明をお願いいたします。

●事務局

こちらにつきましては、これまでの委員会審議では、主に街路樹基本方針の改定だったり、取組に対する市民の理解促進といった点に着眼してご議論いただいたところでした。

評価の内容を踏まえまして、指摘事項でございますが、危険木の伐採など街路樹への取組は市民の生活、安全と密接に関係し、その取扱いを定める基本方針もまた重要なものであるところ、その改定を行う場合においては、その意義や妥当性について、市民に説明責任を果たせるよう、有用性の説明や透明性の確保に努めること。

また、基本方針に基づく取組の理解促進の観点において、市民へ適正に情報提供を行い、街路樹伐採や伐採木の利活用等の取組の意義、必要性について説明がなされた上で、市民の理解の下、取組を進められるよう効果的な周知活動、広報の在り方を検討すること、このような内容とさせていただきました。

以上につきまして、ご審議いただければと思います。

●平本委員長

では、こちらにつきまして、お気づきの点、追加事項などがあればいただきたいと思います。

いかがでしょうか。

基本方針をつくるのに、結構、時間とお金をかけてやっているのだけれども、それが必ずしも市民に十分には伝わっていないのではないか、予算に対して基本方針の中身が見合っていないのではないかという議論がここまでなされてきましたけれども、基本的には、道路緑化というのは市民の憩いにとっても重要なことだし、それから、今の文脈でいうとCO₂の削減などにとっても重要なことです。ただ、風で倒れたり、老木化によって枝が折れて落ちたりということがないように健全に維持していただく、それを必要に応じて伐採するのであるならば、それがちゃんと市民の理解が得られる形で十分な情報提供の上で行われるべきだというのが、多分、ここまでの皆様方のご議論の中身だった

たと思うのです。

そういうことを踏まえて、このような形でまとめていただいているのですが、よろしいでしょうか。

●小島委員

あとは、逆に、木を切るほうの予算が本当に足りているのかということもあると思っています。この間も、東京都内でイチョウの木が折れて人が亡くなりましたが、要は、ああいうことが起きるということです。あれはギンナンが重くて落っこちましたという話でしたけれども、札幌だと雪が重くて落っこちましたみたいな話も出てくるのだと思うのです。要は、そういうことがないようにこれをやるのですよということですね。

ところが、市民の方々は、そういうことが起きると我が事だというふうに思うのですけれども、そうでないと、何で切ってしまうのか、そんな必要があるのかみたいになんかどうして見えてしまうので、そこを丁寧に説明することは続けると。

ただ、予算が2億円ぐらいで、チェックする木が3,500本で、55路線という話をしていると、実は、結構遅いのではないかという気もするので、その辺りも含めて、あるべき姿をもう少し確認する、あるいは、促進するようなイメージで進めていただいたほうがいいのかという気がしました。

●平本委員長

今のようなことを原局にフィードバックいただければと思います。

●事務局

承知しました。

●平本委員長

ほかにご指摘はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

●平本委員長

よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

●平本委員長

ありがとうございました。

次に、事業ナンバー8、空き家対策費につきましてご説明をお願いいたします。

●事務局

こちらは、これまでの委員会審議で、主に空き家を発生させないための取組の在り方に着眼してご議論いただいたところでした。

評価を踏まえまして、指摘事項でございますが、まず、空き家対策としては、居住している状態から危険空き家と言われる各段階それぞれに対して適切に施策を行っていく必要があるが、危険空き家への対応は引き続き適切に実施していく必要があるものの、本来的にはより早い段階の施策に注力することにより、空き家を発生させないというこ

とが重要である。

市民窓口を所管する部署と連携し、札幌市の当事者が接する機会を利用し空き家に関する情報提供、普及啓発を行う。例えば、死亡届等の手続の際に周知・啓発のリーフレットを配付するなど。弁護士などの専門家との連携を強化し、権利関係が複雑化する前の早期解決を促すなど、空き家の発生に資する効果的な手法を検討すること、このような内容とさせていただきました。

以上につきまして、ご審議をいただければと思います。

●平本委員長

こちらにつきましても、ご議論いただきました内容を一部具体的なアイデアも含めて指摘事項に入れさせていただいておりますが、もしお気づきの点があればご発言いただきたいと思います。

●小島委員

二つの話がごっちゃになっているから分かりづらい部分があるのかなと思っています。もう既に発生している危険空き家は、それはそれで適切に潰していただかないと、それこそ、まちを歩いていたらいきなり家が壊れて亡くなりましたみたいな例が出てくるわけです。横浜かどこかで壁が壊れて女子高生が亡くなったという事例があったと思うのですけれども、あれの空き家版みたいなことが起きるとするのは勘弁してくださいよという話だと思うのです。もう発生してしまつて危険空家は適切に管理をしていただくと。要は、早期に潰していくというご対応をいただく必要があるので、それはそれでちゃんとやってくださいねというのが大前提として一つあります。

ただ、何でそれが危険空き家になったのかと言えば、早いタイミングで適切に、要するに、まだ住める状態で売却をするとか権利を整理していなかったから、結果として、危険空き家になってしまったという状況が生まれていると思うのです。ですから、これにご指摘をいただいたように、やはり市民窓口等との連携を強化していただいて、早めに権利関係を整理して危険空き家にならないようにしてねという予防のアプローチをするという両方の話が混在してしまっていると思うのです。ですから、両方ちゃんとやってくださいというニュアンスがきちんと伝わるといいなと思ったところではあります。

これから団塊の世代の方々がお亡くなりになる時代を迎えるので、空き家自体はどんどん増えていくと思うのです。そうすると、さらに20年後には危険空き家だらけになってしまうというのは防犯上も安全上もよろしくないと思うので、そうならないような手を打っていくということを両にらみで対応する必要があるのではないかと思います。

●平本委員長

指摘事項をそういうふうに2段構えで書くことはできますか。

●事務局

もう少し強調するような形で、今までの取組として危険空き家の対応は優先的にやっていただくと。

●平本委員長

同時に、将来、危険空き家になる可能性があるものをできるだけ減らすための種々の対策を打つ、この二つ両方をきちんとやっていただきたいということですね。確かに、そういう書き方のほうが分かりやすいかもしれませんね。

●小島委員

どちらも同時並行でやらないといけないと思うのです。多分、片方だけだと、片手落ちだと思うのです。

●平本委員長

モグラたたきみたいになってしまうのはよろしくないというご指摘かと思います。ほかにはどうでしょうか。

●内田副委員長

文言は変更しなくてもいいのかもしれないのですが、令和5年度の予算と決算を見ると、予算より低いにもかかわらず、令和6年度は若干増えているのは、社会情勢に合わせてこういうふうになっているのだったらいいのですけれども、もしそうではなかったらきちんと計画を立ててやるほうがいいのかなと思うのです。

●事務局

予決算は、危険空き家を除去するための補助金が国から入っていて、その除去をするとかしないということで増減が結構あるというお話を伺っています。

●内田副委員長

これは適切に運用されているという認識でよろしいですか。

●事務局

予定していた除去数、大体何件だろうというものがあって、それがその年によって増減するので、こういうばらつきが出てくるのかなと思います。

ただ、今、私もデータがないので、詳しいことは分からないところです。

●内田副委員長

そうしたら、決算額にかかわらず、毎年このぐらい右上りで上がっていくのは、国からついてくるという話ですね。

●事務局

過去の経緯を見ても、国から入ってくるお金は毎年だんだん上がっていています。

●平本委員長

国もこういう問題を認識して予算を少しずつ増やしているということでしょうね。

●事務局

多分、空き家が増えていくのに準じて、予算も増えていっているかなと思います。

●内田副委員長

市内でも空き家を結構見かけるので、きちんとやってほしいと思います。

●平本委員長

ほかにお気づきの点はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

●平本委員長

よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

●平本委員長

それでは、一応、今回、八つの事業を外部評価対象といたしまして、空き家対策費までの8項目につきまして、報告書の内容についてご検討いただきました。

全体を通じて、もしお気づきの点があれば、前の事業に戻っていただいても構いませんので、ご発言いただきたいと思います。

いかがでしょうか。

●小島委員

先ほど指摘すればよかったのですが、5ページの指摘事項の後ろのほうで、この事業の取組で直接的に企業誘致等につながった実績を把握することと書かれているのですが、恐らく、東京事務所は、企業誘致そのものを成功させることを目的に事業をやっているわけではなくて、出先として本庁で企業誘致や観光をしている部署につながるが仕事なわけですね。企業誘致をすること自体が彼らの仕事ではないと思うので、関係する市役所の部署、あるいは、観光協会などの企業につないだ数のほうが事業の中身としては適切なのかなと思うので、そこはそういう書き方にさせていただくほうがいいかなと思いました。

あまり企業誘致と書いてしまうと、職員は真面目なので、東京事務所がそっちのほうばかり頑張ってしまうというふうに振れる可能性があるのです。そうではなくて、東京事務所はゲートウェイなので、そのゲートウェイから関係する部署につなが、だから、間口を広げてきちんとつなぐというところをがんばってもらうというニュアンスとして反映していただけるとよろしいのかなと思いました。

●平本委員長

今の件は、文言の修正をお願いいたします。

●事務局

承知しました。

●平本委員長

ほかにも、全体を通じて、何か気になる点や、ご発言が足りなかった部分があれば、ご遠慮なくお話しください。

●小島委員

あとは、少年団体活動促進費をどうしようかという話ですね。

今日出てきたものもあるのですが、やはり財務諸表を見ていると、この事業全体は、札子連が1億3,000万円からの予算で動いていて、この事業とこの事業関連の補助

金で1億円突っ込んでいるわけですから、要するに、札子連自体がほぼほぼこの予算で運営していると。そこに一定数の市の職員が天下っておりますというのは、このご時世、いかなものかというところだとは思っています。

昔は、国も含めて、どこの自治体でも組織維持のために補助金的なものを使って事業をやるというのはよくあった姿ではあるのですが、大分なくなってきたと思うのです。少なくとも、国では、やはり民主党の政権交代のときにそれを大分切ってしまったので、なくなっているのですよね。なので、こういうものがまだ残っていますというのが、そもそも事業としては問題ではないかと。それが適切な競争環境が行われた上でまだ維持されているというのだったら、適切な処理を行っているので良いのです。確かに、随契としての処理は適切にやっていますということですが、競争もしていない、市のOB職員がいます、長年やっております、だけど、子ども向けのリーダー研修とキャンプ場の維持みたいな全く関係ない仕事がかっついてある種の参入障壁のようになっているというのは非常に公正さに欠ける、今どきの透明性のある事業の在り方とは相入れない状態になっているのではないかと思います。

その辺りをこの評価シートでどこまで言うのかだったり、これが行政評価委員会の話なのか、それとも、包括外部監査の話なのかというのは別のものだと思うのですが、私は、以前も申し上げたとおり、もうこれは包括外部監査に回して徹底的にやってもらったらどうかという気がしているのです。何か言い切れないのだけれども、もう少し何とかならないのですかというところですね。問題はないのだけれどもみたいなことがいっぱい書いてあるのだけれども、ハインリッヒの法則のヒヤリハットではないのですが、小さい怪しいものがいっぱい重なっていませんかというところが、この事業の不透明さを増しています。

もっと言えば、ほかの自治体ではなくしつつ、あるいは、その事業の単位がもっと小さいという状況の中で、やはり市が億単位の予算を打つと。ほかのところでお金がないのだけれどと言っている中で、これに1億円以上を突っ込んでいるわけですので、非常にゆゆしき問題だと思うのです。そこはいろいろな視点で、改革推進室の視点でも見ていただいたほうがいいと思うし、財政の予算の視点でも見ていただいたほうがいいと思うし、監査から決算の視点で見ていただいたほうがいいと思うので、それぞれの視点でもう少し厳しく見ていただきたかったところでありました。

●平本委員長

例えば、今日のご説明を聞いて、市民の方々が、ああ、それはいいね、これからも続けてねとはなかなかおっしゃらないと思うのです。やはり、市民が納得する、ないしは、市民にとって腹落ちするようなことをきちんとやっていくということが全てだと思うのです。そういうような意味で、誰が見ても、ううん、今の時代にそれでいいのというようなものについては、きちんと直していかないとまずいのだらうと思います。それは、もう小島委員のご指摘のとおりかなと私も思います。

ほかにご発言はございませんか。

●内田副委員長

関連して、今日聞いた人件費に関して今後調べますということだったのですが、その反映について、恐らく、今日が最後の委員会になるのかなと思ったのですが、どうですか。

●事務局

出てきたものをご覧いただいて、それを見て、もっとこうすべきではないか、指摘をこう変えるべきではないかといったご意見があればいただいて修正させていただきたいと思います。

●内田副委員長

そういう時間的な余地はまだあるという認識でよろしいですか。

●事務局

急ぎます。

●平本委員長

市長に対して手交するのはいつを予定しているのですか。

●事務局

まだ明確に決まっていないので、調整できる状態です。大体、去年と同じく、10月、11月で考えています。

●平本委員長

分かりました。

●小島委員

高崎委員からの質問に対して何で答えられないのかというところも問題だと思います。結局、ほとんどの事業の予算で人件費や組織維持のコストを充足しているわけですから、何で中身を分かっていないのかというところもあると思うのです。札子連が勝手にやっている事業ですからとは言えないのではないかなと思うのです。だって、市が食わせているわけですね。

●平本委員長

でも、大学生に仕送りを送っていて、その使い道を親が全部知っている人もいないですね。

ここは公益社団法人で、一応、独立した非営利組織ですから、そこはそこでいろいろ会計をやっているのだと思うのです。結局、随契で長いことやっていることが小島委員がそういうふうにおっしゃるお気持ちにつながるし、一方で、行政と非営利法人の関係で見たら、そこは一応独立性のある関係であります。そこに随契で入っていることが、しかも、長期的にもう20年以上ずっと随契でやっているということが引かかる、結局、最後はそうなるのですよね。

●小島委員

別組織なのは間違いないのです。それが別の会社だったら全然問題ないです。入札の結果を経て、業者が落札しましたと。だけど、そのとき、その業者がどういう経営状態なのか、最低限のものは見るわけですが、根掘り葉掘りは聞きませんよと。それは、普通の商慣習の在り方としては正しいのです。

ただ、この事業に関していうと、札子連の1億3,000万円からあるお金のうちの大半は市が払っているわけですね。1億円以上払っていますと。あとは、この事業に付随して発生している材料費などにお金を払っているということですから、ほぼほぼ市のお金で運営されているわけです。だとすると、市が中身を知らなくていいというのはおかしいのではないかと。

昔の3セクに限りなく近い世界ですが、ただ、昔の3セクのほうが市としてはちゃんとウオッチしていたのではないかという気がしていて、むしろ、中途半端に公益社団法人でございまして切り離しているの、かえって何も見えなくなっているような気がする、そこも含めて何かがんがあるなという感じはします。

●平本委員長

私も小島委員のおっしゃる意味はよく分かります。

●内田副委員長

私も高崎委員と全く一緒ですけれども、ここで証言された額と決算書の額が食い違っていると、また違う問題ですね。やはり随契ですから独立性があってもいいと思うのですけれども、そのつじつまは合っていないと、やはりおかしいことになると思うのですよね。そこはきちんとしていただきたいと思います。

●平本委員長

以前、名古屋はこういうやり方でやっているというご説明でしたよね。

●事務局

たしか、名古屋は直営です。

●平本委員長

直営でやるのだったら1円単位まで行政で把握しているわけですね。

●事務局

そうですね。

●平本委員長

入札あるいはプロポーザルでやるのだったら、それはもちろん予算をきちんと把握した上で契約をするということで、やはり長期的に随契でなおかつ一つの主体とだけやっており、小島委員がおっしゃるように、予算の大半が行政から出ているということの不透明さが一番気になる点ですね。

私個人としては、もうプロポーザルかなんかにしたほうがいいのではないかと本当に思うのです。

●小島委員

プロポーザルでも入札でも何でもいいのですけれども、キャンプの維持管理だったらキャンプの維持管理で、それを指定管理なり入札にして、それで決めていただければいいし、リーダー研修はリーダー研修で、そもそも政策的な意義をもう一回確認していただくというのは必要だと思うのです。これまでの話の中でそれはそれで受皿があるかどうかみたいな話もありましたが、性質の異なる業務を束ねているので受け皿がないように見えます。場合によっては、分割するならやってもいいよというところが出てくるのだとすれば、それはそこがやればいいのではないかと思うのです。

あくまでも透明性がない状況でやるのだったら、もっとちゃんと透明性が確保されるようにやってほしいし、そうではなくて、契約のやり方で透明性が確保できるのであれば、それにこしたことがないので、そういうふうにしていただくというのがあるべき姿かなと思っています。

ついでに言えば、予算をもう少しきれいに整理して、さっきの中小企業の人材獲得の事業に回すほうがいいのだけどなど。これは別に委員会の場で言う話ではないのですけれども、どうしても予算上の制約があって皆さん逼迫している中でいろいろな社会課題を解決しなければいけないよねという状況の中でも、中小企業の人材が足りない、樹木の伐採をちゃんと進めないといけない、危険空き家を潰さなければいけないといった優先すべき課題がある中で、この事業が本当にこのやり方で継続することの意義は極めて重いと思うのです。ですから、そこをもう少しきちんと考えていただきたいと思います。

●平本委員長

ほかにも、こういうものはいっぱいありますか。

●小島委員

あると思うのですけれども、ちょっとこれはひどいです。今とき、なかなか見ないなという感じです。20年前だったら結構あったのですけれども、こういうものがまだ生き残っているというのはいかなものかと思います。

●平本委員長

昨年の札幌市交通安全運動推進委員会の話がこれに近いかなと。いろいろ検討しまして、事業の意義については、時代に合わせて見直しが必要だということは申し上げたけれども、あちらのほうが透明度は高かったですよね。

●小島委員

あちらは、天下りや区によって偏在があるから今の体制がどうかという問題はあるのですけれども、事業の回数もきちんとこなしていますし、やっている方々も機能しているのが分かったのでもいいのですが、こっちはちょっときついなという感じですよ。

●平本委員長

ほかにご発言はございませんか。

●高崎委員

今後の行政委員会が進め方でご提案です。

今回の札子連の事業で質問したときに、聞きましたというヒアリングベースの回答が多くて、結局、それが最後まで錯誤した原因になったと思うのです。もっと早い段階から、ヒアリングだけではなくてエビデンスも回答で求められるようにしていただければ、もう少し進んだ議論ができたのかなと思っています。

最初は財務諸表も出せないという話だったと思うのですけれども、結局、最後には出てきましたよね。

●事務局

最初は、委託した事業の内訳を確認したいという話だったのですけれども、今お出ししたのは、札子連の財務諸表なので、また話が違ってきます。ただ、もう少し早い段階でお出しするべきでした。

●高崎委員

もう少し早く数字的なものを見られたと思うので、ヒアリングだけではなく、エビデンスもお願いできればと思います。

●事務局

承知しました。

●平本委員長

それは、今後の進め方としては重要なご指摘だと思うので、ぜひ事務局として次年度以降のご対応をお願いいたします。

ほかに、全体を通じていかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●平本委員長

それでは、本日の議題は終了といたします。どうもありがとうございます。

今後の日程につきまして、事務局よりご説明をいただきたいと思います。

●事務局

本日の委員会での修正事項については、事務局で取りまとめさせていただいて、委員長にご確認いただいて、その上で報告書を完成させていきたいと思っています。

もし委員の皆さんから文言修正を含め、指摘事項等がある場合は、お早めにメールでいただければと思います。

●平本委員長

いつ頃までにお送りしましょうか。

●事務局

今週中までにいただけると非常に助かります。

●平本委員長

もしございましたら、今週中をめぐに、事務局にお気づきの点をメール等でご連絡いただければと思います。

●事務局

完成した報告書については、市長への手交式を予定しております。先ほども申し上げましたけれども、10月から11月ぐらいに正副委員長2人にご出席いただいて行いたいと思います。別途、ご連絡させていただきます。

報告事項は以上です。

●平本委員長

それでは、今、事務局からご説明がありましたように、今後お気づきの点が出てまいりましたら、今週中をめぐにご連絡をいただきたいということ、それから、今日ご審議いただきました内容も含めまして、最終的な文言の調整等も含めた報告書の確定については、委員長の私にご一任いただきたいということをお願いいたします。

3. 閉 会

●平本委員長

それでは、以上をもちまして、第4回札幌市行政評価委員会を終了いたします。

このような形で委員の皆様にお集まりいただく機会は、今年度は今日が最後でございます。ありがとうございました。

また、来年度、メンバーが変わるかもしれませんが、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、どうもありがとうございました。

以 上